



m i c h i



(昭和29年12月11日、明主様は完成間近の水晶殿一泊された)

旭光に浮かぶ水晶殿

DEC. 2022

世界救世教 明主様と聖地に直結する会

力

力について世の中の人には深いことを知らないからここに書いてみるが、これを科学的定義でいうならば、目に見える形ある力ほど弱く、見えない力ほど強いという原理である。すなわち前者は何(なん)馬力とか、何キログラムとかいうように限度があるが、後者に至っては無限である。つまり人間の想念と同じで、目には見えないが恐るべき力がある。偉い人の力は一人で世界を動かすことさえできるのは人の知る通りである。

右は人間だけについての説明であるが、これを押し拡(ひろ)げたのが神様の力である。これを科学的に説くこともできる。すなわち科学で唱(とな)える粒子説がそれで、これによると人間の霊は素粒子であって、神様の霊は微粒子である。勿論(もちろん)神様でも神格が高まるほど、微粒子の度はますます高くなりそれとともに稀薄(きはく)にもなるのである。このように力学的にいっても素粒子ほど力が弱く、微粒子ほど力が強いことを知るべきである。

この理によって最高級の神様のことを、神道(しんとう)では幽(ゆう)の幽とか、または幽幻微妙(ゆうげんびみょう)などともいわれるのはまったくそれを表現した言葉である。この理によって私に与えられている神力は、最高級の神霊であるから、絶対力(ぜったいりき)といってもいいくらいのもので、この力は本当に揮(ふる)われた者は、昔から一人もなかったのである。かのキリストにしる、いい難しい話だが割合弱かったのは事実がよく示している。すなわちキリストの行った奇蹟といってもご自分だけのもので、弟子達にまで分け与えることはできなかったのである。その他の聖者にしても、ことごとく限られた力であったことはその事蹟が示している。

ここに私のことを少し書いてみるが、私の発揮する力の大きさと強さは、無限絶対といってもいいくらいで、現在行使(こうし)してる力の一部の発揮でしかないがそれでも知りえた人は驚嘆(きょうたん)する。信者は勿論だが信者の中でも熱心な人で何分の一くらいしか分かり得ないのである。いうまでもなくいずれは本当に発揮する時が来るから、そのときは開(あ)いた口が塞(ふさ)がらないであろう。故(ゆえ)にいまから腹帯をしっかりと締めておく必要がある。そうして私が現在現している力だけでさえ病気を治す人間を作り、農業の増産法を教え、神の実在を分からせる奇蹟を現しているばかりか、大規模な地上天国や美術館をも造っているのだが、これらはホンの小手調べで時とともにだんだん押し拡(ひろ)がりいずれは世界的に天国を造ることになるから、本当の神力はこれからである。

そのようなわけでもっと詳(くわ)しく知らせたいが、いまいったところでとうてい信ずることはできないし、神秘でもあるから、ホンの一部分だけ時に応じ、進むに従い発表するのである。これを要約すれば善言讚詞にある通りの世界を造ってゆくのである。特に一言いっておきたいのは、最大の争いである国と国との戦争であるが、これも私は時が来れば、一挙になくすことができるだけの力も有(も)っているから、安心してもらいたいのである。

(「栄光」151号 昭和27年4月9日)

祝 御生誕 140 年/2022

～教祖伝『東方之光』に明主様を求める～

私物語・序文（未発表）より

三大宗教の創立者は、キリスト、マホメット、釈迦の三聖者である事も分り切った話である。そうして彼等が弘通の方法としての殆んどは、教えを基本としての、筆と口によった事で、それ以外の手段は余り用いなかったようである。

処が私に至っては全然異っている。（中略）既成文化の誤りを匡（ただ）し、真の文化の在り方を種々幾多の方法と現実とを以て教えている。其最も主眼としているのは、病氣と貧乏と争鬪を此地上から消滅する事であって、これは常に私の唱えているところである。（中略）地上天国世界の紀元を作る私としては、後の世の為自分という者のあるがままの姿を出来るだけ審（つまび）らかに記（か）いて置きたいと思うのでこれから書くのである。

（この続きは、『東方之光』上巻、巻頭文を紐解き訪ねてください）

≪ 目次 ≫

御教え	2
代表挨拶	4
感謝奉告①	9
感謝奉告②	11
各地からの活動だより	13
神戸／愛媛／高知／福岡	
12 月度聖地行事	16
ブラジル信徒の信仰体験談	17
【21世紀を生きる】（3）	20
高頭 和生	
令和5年聖地年間行事	22
柱石之神霊・令和5年年祭のお知らせ	23

令和四年

明主様の示された「道」を求め、まっすぐ歩む

祈り 実践 感謝

『代表挨拶』

西村 正資

草枕 くさまくら 一人寝る夜は宣伝の ひとりね よ せんてん

旅にも思ふ故郷の妻 たび おも ふるさと つま

(昭和五年二月二五日 明主様詠)

今年も早、師走を迎えました。暑さ寒さやコロナに気を取られ、最近まで時の経つのを忘れていた自分を感じます。

冒頭のお歌は、明主様四八歳の冬にお詠みになられたものです。「宣伝」とは布教開拓のことで、いつの時代も同様、その大部分は失意を覚える社会の厳しさばかりではなかったかと想像いたします。冬の寒風と社会の冷たさとが重な

り、理解し支えてくれる人も僅かという孤独感も相まって、寒さが一層身に染み、見知らぬ土地で一人布団にくるまり、留守を預かるご夫人を思いやりながら、ひたすら耐えていらしたのではないでしょうか。

そのような明主様のご創業のご苦勞を偲ぶ時、温かい布団の中で、遠く異国の地で行われているサッカー中継を興奮気味に観戦している自分に気づき、申し訳なさが湧いてきます。

それでも、これも「明主様のお蔭です。良い時代に導いていただいたのだ」と感謝で受け止め、「サア改めて自分の役割りをしっかり果たさせていたどうか」と切り替えることが出来れば、明主様もきつとお喜び下さるのではないかと思います。

令和四年、明主様御生誕一四〇年の今年、私達は「明主様の示された「道」を求め、まっすぐ歩む ―祈り・実践・感謝―」という課題を掲げさせていただきました。

お一人お一人それぞれの立場で取り組みをいただき、成せたことや不十分であったと思えることも多々あると思います。しかし、当会全体としては、本年は全てに亘り、前年を大きく上回る奇蹟や前進を許されています。

このことは、当会信徒全員の「一丸となった篤い信仰に、明主様から許されたお蔭（ご褒美）」と受けとめさせていた

だいており、心から皆様に感謝を申し上げます。

それでは、先月号に掲載された感謝奉告に、学ばせていただきたいと思います。

『道』 一 一 月号、感謝奉告より

霊界の夫と二人三脚で！

淡路グループの中川美子さんのご奉告は、この度の教団混乱当初、ご主人は「周囲の信徒仲間が混乱し迷わないように考え、状況を見て直結の会に合流する」と話していらつしゃったようですが、行動直前に病に倒れ、帰幽されました。その後、不思議な流れでメシア教から、押し出されるように聖地直結の会に参加されることになりました。

今では、月二回の集会を始め、訪問やご浄霊のお取り次ぎにと多くの信徒をお世話され、いつかは皆が集える施設が許されるようにと祈りつつ活躍されています。

私は、ご夫人の背後に霊界に赴かれたご主人の働きを強く感じます。生前は、熱心に布教され、信徒のお世話に尽力された功労者ですから当然なのかもしれません。

明主様のお手伝いは、実は容易なことではありません。この神業は、霊界に於ける正邪の壮絶な戦いの中に

飛び込むということであり、霊界の協力や支えが無くてはとても成しおうせるものではないとみ教えいただいています。

私自身も、教団混乱直前に帰幽した兄の気配を感じ、支えてくれる”と思うことがしばしばあります。

私達は、誰しもこの世に居ることに執着し、「生命」にこだわります。そのためつい命があつたことに「奇蹟」、失うことに「不幸」と単純に考えます。これでは、すべて人の人生最後は「不幸」で終わることになってしまいます。

魂は、永遠に生きる存在ですから、本来なら魂の富有「積徳」が進めば「幸せ」で、「くもり（罪）」を増やせば「不幸」ということが本当なのかもしれませんね。

先祖は、一族郎党の末永い栄えのために、明主様のお役に立たせていただく「積徳」のチャンスと捉え、現界に働き手を残したり、霊界に赴き現界を支えたりと役割を互いに分担し、活躍されているのだと思います。明主様のご用は、「亡き主人と二人三脚」と意識され、楽しくお進めになるのも良いのではないのでしょうか。

聖地の写真に癒され体調が改善

土佐みろく教会のHSさんですが、コロナで聖地参拝が

出来ず、許されることを願っていたところ、ある方から聖地の写真をいただかれたそうです。その美しさに心が癒されると共に、体調も良くなりましたとのご奉告でした。

聖地には、絶対力の根源である最高神霊がお鎮まりになっています。明主様の愛と祈りが籠められています。一部信じる人のみの聖地でないことは充分理解されていると思います。例え写真といえども、霊力は写し込まれるのでしよう。

以前、私が赴任していた石川県小松市の布教所に、高校二年の息子さんを引き連れ、母子が訪ねて来ました。息子さんが足の骨肉腫で、医師から余命半年と宣告されたとのことでした。最初ふてくされた態度だった息子さんは、次第に浄霊の癒しに気づかれました。しかし、家業が農繁期となり両親が作業に出かける日中に痛みが出ると、本人から浄霊の要請が布教所に入るようになりました。片道小一時間かかります。その間彼は瑞雲郷梅園から見た救世会館の写真を足の患部近くに置いていました。なんとご浄霊と同じように痛みが緩和されるのでした。聖地写真にもご浄霊と同じ力が宿っていました。気休めではありません。信じるから効くのもありません。そこに神の愛という強大な力が備わっているのです。私も彼から教わりました。その一七歳の道広君を、私は思い出しました。

残念ながら一年後、穏やかに亡くなりましたが、そのような様子をご覧になったご家族が、その後も熱心に信仰を続けていらつしやいました。

そのような聖地に直結させていただける尊さと喜びを、私達は忘れてはならないと思います。

また、多くの方々にも、当会会員の使命として伝えてあげたいものです。幸せは、おすそ分けが大切です。その姿に、また明主様も感応され、お蔭のすそ分けの分まで用意して下さることでしよう。

土佐市民会館で迎え花のご奉仕

土佐みろく教会では、生け花山月の活動を長く取り組まれてきています。この度は、土佐市民文化祭実行委員会より依頼を受け、特に迎え花を届けられました。他に生徒各個人の出展も行い、文化祭を盛り上げています。

「明主様のお花を活ける」ことを意識され「お花を見に来ていただいた皆様へ遍くおひかりが届き、幸せになっていただけますように」との祈りでご奉仕をされました。

土佐の皆様のお花による社会奉仕は、すでに何度も機関誌に掲載させていただき、ご存知だと思いますが、花による天国化運動の一環として、今日まで随分長い取り組みをされ、地元でも大きな信頼を得て、文化的活動にはまず山

月をと、欠かせない存在になつていようです。

一時の善行は容易ですが、それを長く継続し、社会から信用され期待されるようになるには、大変な誠と努力が必要であつたと思います。本当によく頑張つて来られました。土佐みろく教会でお花のご用に携わられた皆様の信用は、私達の信用になりますし、まさに明主様の信用となります。

明主様の地上天国建設の柱は、「浄霊・自然農法・美による救い」であることは、ご存知だと思います。

前の二つはよく理解されています。美の活動は、一番分かり易く、入りよい活動のように思えるのですが、実はそれを表わすことというのは案外閑却されがちになつていような気がいたします。

清潔な服装や立ち振る舞い、言葉づかい等という個人の日常生活に係わることから、料理や家の掃除、庭の手入れや道路、街並み、そして文化芸術芸能に至るまで、すべて美しくなるのが天国への道だと教えていただいています。中でも、「お花」というのは、私達をどんなに和ませてもらふことでしょうか。

明主様は、日常的に自ら各室にお花を活けられ、

『私は、花を活ける時、ことにいろんな神秘的なことがありますよ』(昭和二四年一月)

『邪神は花をとて嫌うんです。だから必ず部屋には花

を飾らねばいけない。仏様に花を上げるっていうのもそれなんです』(昭和二四年五月)

天国に無くてはならないのが「お花」なのです。逆に考えれば、花が無いというのは、地獄の様相であり、人間を苦しみのどん底に引き込もうと狙う邪神の活躍の場ということにもなりかねません。

一輪の花にも、尊い天国建設の一端を担わせていただくとの誇りを胸に、これからも大いに活躍していただきたいと願っています。

令和五年に向け、気迫ある信仰の構えを

先日、たまたま「昔は奇蹟が沢山あつたが、最近は少ない」という声を耳にしました。本当にそうなのでしうか。

もし、そうであるなら、神様の力が弱くなったのか、明主様が、よそに行かれたのかということになります。

その原因は、与える側の神様、明主様にあるのか。それともただく側の私達にあるのかを、まずは冷静に見つめるべきだと思います。

しかし、今も沢山のご守護が現に許されています。この一年、当機関誌に掲載された奇蹟、何度も読み返して下さい。ご存知のように掲載されている奇蹟は、氷山の一角とも言えます。また、私達の日常でもよく体験するところは、

「頭が痛いからちよつと浄霊して」「楽になった。もう浄霊いいわ」。「今日大切な用事があるから祈っておいて」「何とかなった」。「コロナにかかった。祈願をお願いします」。「退院しました」等々、これらは、明主様からの恵み、奇蹟と思えなくなってきたのではないのでしょうか。いつしかご守護に慣れ、少々の奇蹟では喜びや感謝を感じなくなり、当然報恩の心や行為まで至らなくなってきました。私自身も、ついそのような姿に陥っていると反省することがあります。

また、取り次ぐ側の信仰にも同じことが言えるのかもかもしれません。神様への畏れを忘れ、誠や真剣さが薄らぎ、取り次ぐ姿勢や浄霊の回数や時間の長さ、明主様よりまず医師に頼る姿等。神様に真向かう気迫が「淡泊」になつていくのではと感ずることもあります。

また祈願者は、自分の苦しみ一点のみを見つめるため、その周囲にあるもつと大切な事柄に大きな御守護を許されても、本人がなかなか気づかないということもあります。とは言え当会事務局には、常時百件を超える祈願依頼の要請があります。大多数は、無事に済ませていただいています。いただいたご守護に「感謝」を述べるのか。残された変わらない部分を見つめ「不足」を述べるのか。選ぶのは一人一人の姿勢になります。

明主様の見守りに気づき、心からの喜びを感謝で表し、その後の人生をより質の高い人格で送れるようになれば、明主様も「許し甲斐、与え甲斐がある」ということで、また、次のお蔭も考えて下さるのではないのでしょうか。お小遣いを与えた時の子供や孫の喜ぶ笑顔。そしてしばらくは良い子で頑張る姿。明主様は、これをご覧になりたいのだと思います。

年末を迎えるにあたり、各自が今年いただいたお蔭を再度整理し、見逃していたご恩がないか。感謝と報恩の念をしっかりとつきり持たせていただいているか。このことが新しい一年を迎える大切な「構え」ではないかと思えます。また、そのことを明主様に改めてご奉告申し上げるのも、一二月二三日「明主様御生誕一四〇年の御祭」への重要な祈りになるのではないのでしょうか。

この一年、本当に皆様の信仰に導かれ、教えられ、支えられてまいりました。心から御礼を申し上げます。新たな年が、皆様にとりまして一層の安寧が許され、大御様、明主様と共に歓喜の一年をお迎えになりますよう、聖地御神前にてお祈りさせていただきます。ありがとうございます。

【感謝奉告】①

交差点事故、車は大破

〜コンマ数秒差で御守護を頂く〜

愛知一宮 安藤 真里

この度交通事故に遭遇致しましたが、頂いたご守護と氣付きについてご報告させていただきます。

11月10日お昼の12時50分ごろスーパーへ買い物に行った帰り道の事です。一宮市に隣接する江南市五明町の交差点で信号待ちをしていました。青信号に変わり直進したところ、赤信号であるはずの右側から2トントラックがスピードを緩めることなく走ってきました。瞬間でしたが、

「絶対にぶつかる。ブレーキは踏まない」と私が信号を間違えたのか”と思いました。結果、凄いい勢いでぶつかってしまい、2車線の道路は、1車線が事故車両で完全に塞がれてしまいました。

私は車の中で、突然の思いがけない恐怖で身動きもできません。やっと、震える手を抑えながら警察に電話することができました。それでも茫然として運転席に座ったまま身動きができない私がありました。通行人の方が歩み寄り、「危ないから早く降りたほうが良いですよ」と声をかけてくださり、やっとの思いで外に出ることができました。

しばらくして警察官が到着しました。私の身体にけがや異常がないことを確認、その後、事故の状況調べが始まりました。

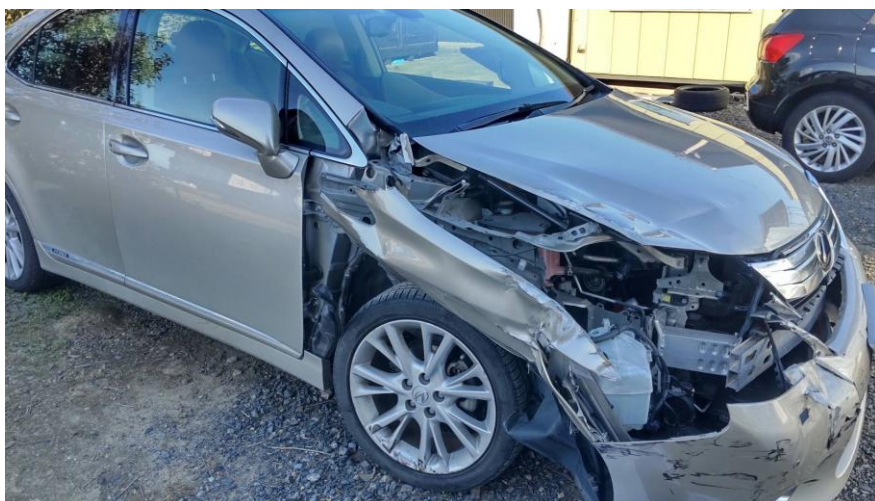
トラックの運転手は信号に気付かず、信号無視・ノーブレーキで交差点に突入した事実を認め、私に謝罪しました。車は右側タイヤ部分からフロント部分までぐしゃぐしゃになり、大破した愛車はエンジンもかからず、レッカー移動となりました。

午後3時過ぎ、やっと調べが終わり、現場に迎えに来てくれた主人の車で自宅に帰ることが出来ました。家に戻り、さっそく御神前で事故報告と無傷で済ませていただいたお礼を申し上げます。

一夜明けた11日、大島先生に電話で交通事故の報告をしました。すると、さっそく我が家を訪ねて来てくださいました。先生からご浄霊をいただき、本当に有難く感謝の氣持が溢れてきました。ご浄霊が終り、引きつづき交通事故の状況について説明をしました。車の破損状況から判断しても、負傷もしくは生命にかかわるようなことになっても不思議ではない状況だっただけに、先生は、全くの無傷であったことに驚かれるとともに奇蹟的な結果をお許し頂けたことを心から喜んでくださいました。

私も大きな御守護を頂いたことに感謝していましたが、なぜ交通事故に遭遇したのか……?“このことが脳裏か

ら離れませんでした。そこで、「何故でしょうか」とお尋ねしました。先生は、「御教えに基づき、今回の事故の背景にあるご神意を求めましょう。特に、事故に偶然遭遇したのではなく、必然の出来事であると受け止めてください」と話されました。



ダメージを免れた運転席

そう言われれば、事故当日の10日は、本来我が家の家庭感謝祭の日でした。いつもであれば、家庭感謝祭当日は、朝から御神前とみたまや、またご仏壇にお花を活け、床の間のお掃除をしています。しかし、今月に限っては、「明日は忙しいので」と思い、9日にお掃除を済ませ、お花の準備もしていたのです。いつも通りしていたら、事故に遭遇したショックで、家庭感謝祭の準備も、またお祭り

そのものもできなかつただろうということに気付き、不思議な思いが湧いてきました。先生から、「安藤さんは、明主様にとって御神業推進に欠かすことのできない必要な人だからお助け下さったとしか考えられませんね」とお話を頂きました。一歩間違えば生命をも失っていたかもしれない。そういうところを、全くの無傷で生還を許された御守護であったことに気付かせて頂き、感謝してもしきれない有難さが込み上げてまいりました。

振り返れば、丁度1年前の11月に聖地で助師資格研修会が開かれ、私達夫婦も未熟な信徒であるにも拘わらず、研修会に参加が許されました。あれから1年が経ちます。1年後の同じ11月に交通事故に遭遇したのは、「研修会の感動や決意を忘れてはならない」という意味ではないのかと整理させて頂きました。

これからも信者さんのお世話、浄霊訪問や集会へのご案内は勿論の事、御教えの深い学びと研鑽に取り組みます。また常に日々生かされていることに感謝申し上げ、聖地直結の会所属信徒であることへの誇りを胸に、信仰のレベルアップに取り組ませていただくことが与えられた生命に対する報恩であると思っています。

明主様、この度は生命をお救い頂きましたこと、謹んで感謝御礼を申し上げます。有難うございました。

こんな私でも、明主様が見守っていてくださる

田川布教所 崎山穂積

感謝祭おめでとうございます。

私の日々の生活状態がうまくいかないのか、時間の使い方が悪いのか、いつも時間に追われた暮らし方をしているように思います。

そんな中、今年の3月21日、その日は中山班の奉仕でした。他の用事もあり、主人と病院の検査結果を聞きに行く約束をしていて、少し時間が遅れそうだったので、気がせいでいたと思います。県道を曲がると我が家が真正面に見え、見通しのよい直進で、左右がよく見える十字路なんです。スピードを上げてたのは覚えてます。ただ、全く目に入らなかった軽トラが、すぐ前をすごいスピードで迫ってくる、ブレーキを踏んでいるのに走り続ける私の車に「わー！ぶつかる！」完全に衝突したと目をつぶりました。

よく覚えてないのですが、軽トラの後部の端が私の車の前をすごいスピードで、まるで風が通り抜けるように去っていききました。しばらく胸がドキドキして、ひたすら手を合

わせ、「ありがとうございます」と何度も言っていたようです。主人にも言えず、時間に遅れたことを深く反省しました。免許返納してもとも考えました。このことをきっかけに、日々の時間の使い方、生活態度を見直し、今までのことを考え直すきっかけになりました。

明主様の、「景仰」の中で時間をすごく大事にする、約束を守る、心配りく気づかせてもらえたように思いました。8月は16年間お世話になった車が車検で、今度は受けないうで、できたら軽トラがいいと主人の希望でした。

ちようどこの時期、コロナの濃厚接触者になり、仕事も3週間休み、本当に普通の専業主婦になり、今まで想像しなかった充実感でした。元の生活へ戻ると車も必要、今はとてもそんな余裕ないよね。そんな気持ちで悶々とした日々、「あせりと無理は失敗の元」それがその日の朝の御教えでした。「今は縁がないんよ。」と話しました。主人はあまり納得してなかったと思います。

車のこともですが、このころ不幸が重なり、次から次へと大切な人とのお別れが続いていました。9月25日は布教所の慰霊祭の日、参拝は許されませんでした。献花をお願ひし、朝早く参拝させてもらいました。

その日親戚の子が「車を買替えるので、今まで乗っていた車をあげる」と言ってきたのです。本当にびっくりです。主人とは「そのうち軽トラと縁があればね」と話しま

した。この事で、ご先祖様をすごく感じました。すぐに明主様へお礼の奉告をさせてもらいました。

今迄お世話になった車に本当に感謝です。最後に布教所まで乗って行き、誠いっぱいの気持ちで最後の運転をしました。

今年を振り返り、浄化をこれほど有難く思えたことは無かったと感じています。今まで気付かなかった、何も無い普通のことをごんなに幸せと思わせてもらえた喜び、幸せを味あわせてもらえました。家庭で2人でささやかに食事をし、言い合ったり、植えた野菜、花を見て主人をほめまくって喜んでいる。何でもないことが、すごく貴重に思えているこの頃になりました。

一日を終え、暖かいお布団に入った時が、私には幸せの瞬間、両手を合わせ「ありがとうございます」で一日が終了です。

孫もいませんし兄弟もいません。お金も無いに等しいし、誇れるものも何も無い。ただ、今まで出会った大切な方々、今まで変わらず寄り添ってくれる友がいる。もちろん家族がいる。それが私の財産だと心から思っています。

明主様の信仰にご縁を頂き、自分がこんなに変わったことを大きな御守護だと確信しています。



救世会館奥庭、紅葉のグラデーション

各地からの活動だより



感染に留意しながらの集会だが、情熱あふれる信徒達

兵庫

光の拠点としてスタート!!

日曜参拝日として(マラソン開催で日を変更)

十一月二三日、勤労感謝の日に開催。

神戸須磨集会所の開所式以来の関西地域全体の行事として、日曜参拝を行わせて頂きました。

当日は雨にもかかわらず、30余名の信者さん方が参拝されました。

二階の御神前に入りきれず一階でも参拝される程、たくさんの方々にご参拝がいただけただ事、誠に有難く思いました。

いよいよ、関西の「光」の拠点として動き始め、「光の渦」が、此処神戸須磨集会所から拡がり始めた、と、そう思わされる日曜参拝でした。

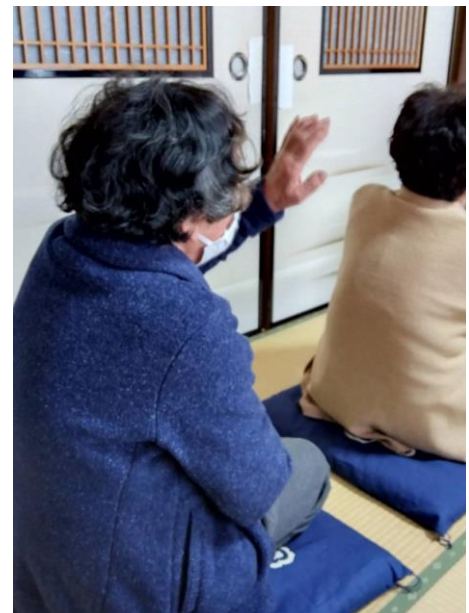
今後、関西地域神戸須磨集会所において月三回、祈願参拝日、御教え拝読会、日曜参拝日を開催させていただきます。一人でも多くの方々にご神業に参画いただけるようにと願っています。

愛 媛

捧げられた感謝のお供え物



浄霊会も「参拝から浄まる」ことから



“ご神業が許されますように、とご浄霊

我が家を信徒の集う場所に

一二月二一日信徒宅で浄霊会

「二年間の予定月の感謝奉告祭と月一回の浄霊会を、誰ひとり欠けることなく実現できました。松山グループの今年の一番の御守護です」と話す会員。また機関紙『道』の代表のあいさつを読んで、「各自感想を語り合い、学びながら、前に進んでこれたこともたいへん大きな力をいただきました」と一年を振り返り明るく信仰の営みが許されたことに、参加者の表情も和んでいました。



注目集めた出品作



「花による天国化」に励むメンバー



明主様のお花を社会に！

土佐みろく教会 山脇瑞枝

第58回土佐市民展が11月25日から27日迄開催されました。文化祭に引き続き「迎花」や「個人」の作品のいけこみをさせて頂いていただきました。今回の「迎花」のりんごの木は、橋村さんがお知り合いからお声をかけていただき、そして、森澤禎子さんに連絡してくださり、思いがけなく入手できました。毎回「迎花」の主材が重ならないよう心がけていますが、このような形ですに入れることができました。本当に有難いことです

故亥角先生からは常々「和合の花をいけてください」と導いていただきました。このような形で実践させていただいていることの感謝でいっぱいです。

「先生、見守っていてくださり本当に有難うございます」



竹の長さを計画通りにカット



令和5年のお迎いの準備が整いました

新年お迎え準備

12月11日、男子信徒を中心に、恒例の門松作り。竹の切り出しは早朝から始まり、昼まで続きます。婦人部隊が美味しいお昼ご飯を準備し、一体となって共同作業が進みました。



最後の仕上げは慎重に



今年一年の恵みに感謝の御奉告



火、水、土の恵み沢に



感染対策の中、熱気あふれるご参拝



華道山月の展示「木瓜と山茶花」



明主様の御光筆を拝する信徒

いづのめ教団
新穀感謝祭

全国から届いた大自然の恵みである米、野菜がうずたかく供えられ、新穀感謝祭斎行。祭員先達のもと、参拝者は明主様に感謝を捧げた。

人救いのお役に立つことで許された新しい命

ヴァヌーサ・ロシャ・ドス・サントス（女性）

皆さん、おはようございます。

私は二〇〇九年に「おひかり」を拝受し、現在はサンパウロ市タトゥア・教会に繋がるサンマテウス浄霊センターで世話人の御用を頂いております。

本日は、信仰の基本行と「お導き」の実践を通じて深刻な健康問題を克服した私の体験を、皆様にお話しさせていただきたいと思っております。

二〇一〇年、私は「家族性大腸ポリポシス」という一種のガン（腸に大量のポリープができ、悪性化すると腹壁にデスマイド腫瘍を発生させる珍しい遺伝性疾患）に罹患していることが判明したため、それを切除する手術を受けました。家族・親戚には私以外にも同じ病気で手術を受けた人が五人おり、私は父と父方の叔母の一人をこの浄化で亡くしています。

術後、一旦病から回復した私は、これまでの活動を再開。引き続き信仰の基本行をはじめとし、人々に明主様を紹介する取り組みや、およそ30名の方々のお世話に励みました。

ところが、二〇二二年の三月に受けたMRI検査で新たな腫瘍が発

見されたため、私は再び手術を受けなければならなくなりました。そして、その手術で胃と腸の外壁にも別の腫瘍が見つかり、腹腔に水が溜まっていることが確認されたのです。

生体検査を行うと、その腫瘍は良性ながら進行速度が極めて速い攻撃的なデスマイド腫瘍であることが判明しました。また医師が腫瘍の大きさと部位を評価して「切除不能」であると判断したことから、私は緩和ケアを受けることとなり、以後定期的な診察と検査を通じて病状の進行具合を観察していくこととなりました。私はセンター長に連絡してそうした現状を報告し、全てを大神様と明主様の御手にお委ねすると同時に、今後の成り行きに関わらず、自分に残された時間、精一杯ご神業にお仕えするお許しを頂きたいと願いました。

三日間の入活を終えると、ご浄霊を毎日平均一四時間頂くようになりました。最初の頃は強い痛みと吐き気に悩まされましたが、徹底したご浄霊のおかげで、そうした煩わしさにも耐えることができました。そこで私はこの浄化を、自然農法産（もしくは有機農業産）を主とする健康的な食物の摂取とご浄霊だけで克服する決意をしました。

ところで、我が家には浄霊訪問に来られる信者さんらの他に、時折、未信者である近所の方々もいらつしやつたのですが、その際は必ず私がご浄霊をお取り次ぎさせていただきました。「きつと病に心を痛めているに違いない」と心配そうな顔つきで入って来た人たちが、献身的な信者さんらが作り出す天国的な雰囲気感化され澁刺と帰っていく、そんな様子を見ながら私は、我が家がまさに「光の拠点」になりつつあることを実感しました。

そうして一月余りが過ぎると、私の病状は著しく改善し、痛みや吐き気も随分と和らぎました。そこで私は家族や友人を誘って浄霊センターを訪ね、神様がこれまでしてくださった全てに感謝の祈りを捧げました（ここで特筆すべきは、そのとき集まってくれた四〇人の半数以上がその日初めてセンターを訪ねる人たちだったということです）。

そして、それ以降は御用奉仕を再開し、ご浄霊と明主様を広める取り組みに再び精を出すなど、良好な体調を維持していましたが、その年の八月に受けた検査では腫瘍が三倍に増大していることが確認されました。

私は検査の結果に落胆しました。しかしその事実を「苦しみを伴わない浄化が許されている」と受け止めて感謝し、気をしっかりと持ちながら御用奉仕に一層力を尽くす決意をしました。

そして「もつと御用にお使いいただかなければいけない」「自分の人生の一分一秒を人救いの御用に捧げたい」という思いを一層強くした私は、浄化を頂いている方への浄霊訪問を強化した他、経過観察で病院を訪れた際に副作用等に悩まれている患者さんと出会えば、その方にも必ずご浄霊を申し出ました。近づいてくる人ほぼ全員にご浄霊を申し出たとと言っても過言ではありません。その人が少しでも悩みを口にすれば、一言断つてすぐに浄霊の手をかざしたのです。

また、救世教に興味を示してくださる方がいれば、その方のお宅で浄霊集会を催し、そこにご家族の方がいれば、その方にもご浄霊をお取り次ぎさせていただきますました。

そして、その結果、大勢の知人友人をグラアピランガ聖地や浄霊セ

ンターにご案内することができ、二〇一五年までに九四名の方を「お導き」することが許されたのです。

こうして、ご神業にお使いいただいていることを神様に感謝しながら、ひたすら他人の幸福だけを願い、ほぼ健常者と変わらない日々を送る一方で、この頃は時々、腹部の痛みや熱、吐き気を伴う強い頭痛や下痢にも悩まされていました。

そうした症状は一五日前後続くと治まりましたが、その後約二週間が過ぎると又繰り返すといったことを数カ月繰り返しました。そして、症状が重い時は普段以上にご浄霊を頂くなど、浄化を信仰で克服するよう努めていくと、二〇一六年四月に受けた検査で、なんと腫瘍の数が半分以上に減っていることが確認されたのです。

御用奉仕によって生み出された光が、私と先祖様の霊の曇りを払拭したのだと理解し、私の心は大きな喜びと感謝で満たされました。そして、物理的には不可能と考えられていたことが実現する兆候を見せ始めていたことに、大神様と明主様のお働きを強く実感し、「霊界には不可能など存在しない」ということを分かせていただきました。

また、ご神業に献身する誓いを新たにし、人救いの御用に少しでもお役に立てるよう教会の内外で御奉仕に励み続けていくと、私のご浄霊をお取り次ぎさせていただいてきた方々の人生にも数えきれないほどの奇跡が許されました。

加えて、家族や友人、信者さんなどに祈りを必要としている人がいれば、一人漏らさずお祈りさせていただけるよう、彼らの氏名を記した「祈りの名簿」も、この頃から常時持ち歩くようになりました。

二〇一八年には浄化が再び激しくなり、嘔吐や下痢等に悩まされた他、重い腹痛と片頭痛で一時は寝たきりとさえなりましたが、熱心にご浄霊をいただくことにより、わずか数カ月で回復することができました。そして同年八月の新たな画像検査で、腸の腫瘍が完全に消滅してしまっていることが確認されたのです。

私の身体の優れた再生力と機能回復能力に感心し、「あなたが実践していることを周りの人たちにも教えてあげてください」と言う担当医に、私は「もう教えています」と答え、浄霊と救世教の信仰実践についてお話ししました。事実、このころ既に私には一二九名の方をご神業にお導きすることが許されていたのです。

それ以降現在に至るまで、私は診察と検査を定期的に受け続けていますが、本年五月に受けた検査でも、病変が全く存在していないことが確認されています。

今回頂いた浄化をきっかけに、私は愛を深め、御用奉仕に一層精進することができるようになっただけでなく、「困難とは、神様が私達の魂を磨くために使われる砥石であり、磨かれることで一人ひとりが自らの真価を見出すことができる」ということを分らせていただきました。

大神様と明主様のお役に立ち、人を救いの道へと導いた分だけ、命の継ぎ足しが許された今回のご守護。大神様、明主様、そして祖霊様には感謝の言葉もありません。またこの間、無償の愛と利他の精神で私を指導し支え続けてくださった諸先生方並びに信者の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

今後とも、大神様と明主様のお道具として、人救いと地上天国建設の御用に精進してまいりたいと思います。
ありがとうございました。



水晶殿より望む朝日

「船井幸雄氏と明主様」

高頭 和生

私は20代のころ、船井幸雄氏の本を夢中になって読んでいました。彼はコンサルティング会社・船井総合研究所の創業者で、コンサルタント会社としては世界初の株式上場を行うほど、負けなしの経営者としてその世界では有名な存在でした。90年代半ば以降は精神世界・スピリチュアルブームを牽引し「スピリチュアル界のドーン」また「人間研究家」などとも呼ばれました。私は彼の著書が、明主様の御教えに沿った天国人としての生き方を、解りやすい現代語、ビジネス用語に訳して表現されているかけがいの無い存在と考えていました。船井氏の考え方や生み出した法則を仕事に活かすと、良い結果が許されることが多くありました。私が読み終えた本は、職場の同僚や友人に積極的に貸しました。読んで共感してくれる友達へは、すんなりと救世教のことが伝えられ、自然に浄霊を取次ぐことが許されていました。船井氏が紹介される方々は大変興味深く、（以後敬称略させていただきます）EM技術を生み出し自然農法を推進する比嘉照夫をはじめ、地球村の高木義之、波動理論を提唱し「水からの伝言」の著者江本勝、脳内ホルヒネ・予防医学の春山茂雄、前世・生まれ変わりの論文から「生きがいの創造」を書かれた飯田史彦、そしてハワイ伝統のホ・オポノポノや、アガス

ティアの葉などの紹介や、大本教信徒で経済アナリストの藤原直哉、日月神示を説く中谷伸一など、現代科学心棒の一般社会では理解しづらいスピリチュアルな考えや技術を、次の新しい時代に必要な価値観や本物技術として、独特なコンサルタント的表現で、わかりやすく世の中に紹介してくれました。

晩年は熱海市内に家を持ち、執筆中心の仕事と生活の場としていましたが、彼は二〇一四年に他界されました。現在その家は、船井幸雄記念館として公開されています。記念館の数千冊の本が並ぶ書棚には、救世教の本もありました。そして数多くの宗教や目に見えない世界の勉強をされていたことが伺えました。船井氏の本を改めて読ませていただくと、明主様が御教えで私達に伝えようとしていた御心に近い想いを、現代語で同じように伝えようとされていたように思いました。そしてこれからおとずれる地上天国の時代に生きるための価値観を多くの方に伝えようとする熱量に感銘すると共に、その背景に明主様のお働きを強く感じさせていただきました。前置きが長くなりましたが、これから当時の私が感銘した船井幸雄氏のメッセージを思い出してゆきたいと思います。

「本物人間」「マクロの善人間」を目指す

これは、船井氏が二〇数年前の二一世紀に入る前後によく言われており、私には「天国人を目指す」という明主様の言葉に重なりました。地球規模で見た人類の課題を要約すると、当時人口増加とグローバル化が加速する中で、発展途上国といわれていた国々が、文

化的に豊かになり、経済・技術・生活水準が向上し「先進国」の仲間入りをするようになりました。今のままの価値観で、地球上の全人類が、私達先進国のような豊かさを均等に得るとしたら、資源の課題から観ると、地球があと二つぐらい必用ということでは。環境の問題、格差の問題、資源の問題、国境の問題、人種の問題など行き詰めると、大きな争いが起きざるを得ない。そうなると近代の文化を伴う人類の営みは終焉を向かえることになる。それを防ぐには、「私達の価値観・人間性が次のステージに上がること」「本物の技術を伸ばすこと」とこの二つが急務であり、そのターニングポイントが目の前に来ている。船井氏は著書や講演のうちに、「価値観・人間性が次のステージに上がるためのポイントが「本物人間」「マクロの善人間」と挙げられていました。

「本物人間」とは、自分の我欲を抑えることと、他人の我欲を認調させようとする努力をする人間です。チェックリストが次のようにあります。①自慢しない、謙虚である。②否定をしない、欠点を指摘しない、悪口を言わない。③自他を同じように見ることができ、行動できる。④周りを蘇生化し、明るくさせ、楽しくさせる。⑤常に、あらゆるものから学んでいる。⑥不要なことはしない。⑦シンプルである。⑧質素である。⑨与え好きである。⑩良心に従い生きている。

「マクロの善人間」とは、大乘の善人間です。人間は自分中心に生きています。そこから家族、仲間、地域と枠を広げ、世の中全体のことを考え、将来のことも考え、その中で、これは善だろうかとか

考え行動する生き方です。どうしても、自分とか、現在が中心となり、ミクロな範囲で善と思える行動をしがちです。しかし人間の範囲を広げ、将来的にみたら善にならないこともあります。「大乘の善は小乗の悪、小乗の善は大乘の悪」という御教えに重なりました。

当時同僚のW氏と「マクロの善！」を合言葉にして、本物人間チェックリストを確認し、仕事を楽しんでいたことを懐かしく思い出しました。天国人を目指す生き方を宗教臭くなく、家族やお友達に伝える参考になれば幸いです。

(参考図書「未来への分水嶺」PHP出版／船井幸雄著)



＜ 令和5年 聖地行事 ＞

月 日	聖地直結の会	東方之光(箱根)	いづのめ教団
1月1日	新年祭・立教記念祭	立教祭	新年祭・立教記念祭
2月4日	立春祭	立春祭	立春祭
2月10日	教祖祭	紫微宮祭	教祖祭
3月1日	豊饒祈願祭	ご面会・豊饒祈願の日	豊饒祈願祭
4月1日	春季大祭	春の芸術祭	春季大祭
5月1日	月次祭	ご面会	月次祭
5月27・28日	資格審査		
6月15・16日	地上天国祭 全国信徒集会(6月15日)	地上天国祭	地上天国祭
7月1日	月次祭	ご面会	月次祭
8月1・2日	月次祭・祖霊大祭	光輪祭・万国戦争犠牲者感謝祈願祭	月次祭・祖霊大祭
9月1日	世界平和祈願祭	ご面会	世界平和祈願祭
10月1日	秋季大祭	秋の芸術祭	秋季大祭
11月1日	月次祭	ご面会・豊饒感謝の日	月次祭
11月3・4日	聖地一泊奉仕研修会		
12月1日	新穀感謝祭		新穀感謝祭
12月23日	御生誕祭 全国信徒集会(12月23日)	御降誕祭 23・24日	御生誕祭 22・23日

教団柱石之神霊・令和五年 年祭のお知らせ

一月	山下昭徳	毘古之神霊	副参与	一五年祭
一月	梶 安幸	毘古之神霊	副参与	四年祭
二月	西山 明夫	毘古之神霊	副参事	一年祭
六月	西村 憲一	毘古之神霊	副参事	一年祭
八月	松橋 豊	毘古之神霊	参事	五年祭
八月	中川 良人	毘古之神霊	参事	三年祭
九月	西村 嘉之	毘古之神霊	副参与	一〇年祭
九月	村上 和利	毘古之神霊	副参与	一年祭
十一月	宮脇 勉	毘古之神霊	参事	五年祭

※聖地直結の会は世界救世教に功績のある御霊を、教団柱石の神霊として、箱根・祖霊舎、熱海・祖霊舎にお祀りしています。



師走の楽しみ

世界救世教 明主様と聖地に直結する会
(聖地直結の会)

〒413-0006

熱海市桃山町 26-1 救世会館 1 階

電話 0557 85 8060

F a x 0557 85 8185

Mail seichicyokketsunokai@outlook.jp